

## 令和6年度第1回 西宮市協働事業提案審査会 会議録(要約)

日 時：令和6年5月1日（水）9時00分から11時00分

場 所：西宮市役所第二庁舎6階 B601会議室

出席者：【委員】伊丹 康二（会長）、西明 直子（副会長）、藤原 純一、岡田 純一、齋藤 広明

【事務局】市民企画課 課長 河内 紀子、係長 武光 真一、主査 黒木 千聖、主査 石田 真莉子

### 〈第1部 プレゼンテーション〉公開

#### ○開会

市民企画課長より挨拶。

#### ○事務局

1 提案につき13分を予定。提案団体のプレゼンテーションで約3分、委員からの質疑に約10分。  
会長進行で開始。

#### 1 番目の事業「地域の絆をつなげて～子育てしやすい街、甲子園口をめざして～」について

##### ○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（甲子園口地区まちづくり協議会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

##### ○委員

- ・ 学生が地域の、特に商店街のことに自分ごととして向き合う機会というのは非常に良いこと。
- ・ 疑問点は、昨年度、小学生を対象にしたイベントへ70人もの応募があったのに、12人に絞る抽選となったこと。抽選に漏れてしまった58人の扱いと、今後の改善の予定をお聞きしたい。また、参加した小学生が高校生・大学生となったときに、どういった関わりをしてもらおうかというロードマップ的なものはあるか。

##### ◇提案団体

- ・ 抽選に漏れた子供については、次回の応募があれば優先したい。また、地域の中から意見をもらって改善していきたい。
- ・ 当地区には中学校や高校はないが、関わった子供たちを呼び込めるようなイベントを今後考えていきたい。

##### ○委員

- ・ 子供を巻き込んだまちづくりは、持続可能の観点から考えると良いこと。また、その子供たちが将来大人になったときにまちづくりに貢献してくれる、社会資源の一つになるという意味でも、良い取組だと思う。
- ・ ポスターやチラシに加え、SNS等で若い人向けに広報する必要があると思うが、運用方法をお聞かせ願いたい。
- ・ アンケート結果をどのように活用していくのか。

#### ◇提案団体

- ・商店街のチラシにイベント内容を掲載し、地域で配布した。それ以外に、SNS や商店街のホームページにも掲載した。
- ・アンケート結果からは、ホームページよりも口コミで知ったという意見が多い。地域に限れば口コミが効果的。ただし、全市から来てもらうにはホームページが有効かもしれないので、両輪で考えている。
- ・アンケートでは、まちとしては大きなイベントを実施してほしいという声や子育ての困りごとが寄せられた。

#### ○委員

- ・まちづくり協議会の構成員は JR 甲子園口駅の南側が多いと思うが、北側からの参加者への対応は。

#### ◇提案団体

- ・北側と南側で一緒に色々と協働していこうという動きはある。大学生やボランティアスタッフにもフォローしてもらっている。

### 2 番目の事業「上ヶ原地区『防災教室』」について

#### ○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（上ヶ原地区青少年愛護協議会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

#### ○委員

- ・防災の話は自分ごととしても公的にも大事。
- ・関係団体の数が多すぎる印象を受ける。多ければいい面もあるが、役割分担や連絡調整が大変。調整はどのようにされるのか。
- ・広報の運用について、紙媒体以外にホームページや SNS はあるか。

#### ◇提案団体

- ・上ヶ原地区の青少年愛護協議会には評議員会があり、各団体の代表者や民生児童委員、自治会長等が集まって話をする。そこですでに、この事業について一度話をしている。各団体の皆さまには好意的に受けとめてもらっている。
- ・紙媒体以外で発信する方法については、まだできていない。広報誌を PDF 化したものを保護者同士 LINE で共有するなどしており、まだアナログな方法だが、そのようなところで PR していきたい。

#### ○委員

- ・地域の人たちから防災の話聞くことで、子供たちが有事の際に動きやすくなり、連携も取りやすくなるので、非常に有意義。ただ、長期的な目線で考えると、1回で終わりではない。フィードバックや目標を掲げるにあたり、青少年たちにどのように変わってほしいか、どのような関わりを持ちたいかについて考えはあるか。

#### ◇提案団体

- ・地域の行事には、大学生もボランティアで来てくれている。また、近隣の大学には地域活動に興味のあるゼミがあるので、市からも声をかけてもらい、どのように成果を測れるか、また発表できるかについて、課題として持ち帰り、学生たちと話をしたい。

○委員

- ・青少年愛護協議会ならではの強みが間違いなくあるので、その部分が指標として表れると良いと思う。

○副会長

- ・実施する事業の内容として、「防災クイズ（親子で参加できないか）」と記載があるが、詳しくお聞かせ願いたい。

◇提案団体

- ・例えば、町の中の危険箇所や避難所の確認をスタンプラリー形式で実施するなど、こちらも学生たちから知恵をもらおうと思っている。防災クイズのようなものを、子供が集まるイベントとして実施したい。

○副会長

- ・今回、地域力向上型に提案されたのは、これまで学校や関係団体と一緒に上手に活動されてきた地域の強みを生かしてのことだと思う。来年は阪神・淡路大震災から 30 年になる。地域で、震災に強いまちづくりを考え、子供たちがそれに続くように企画してもらえると良いと思う。

○会長

- ・一つだけ、意見を。「防災、防災」と言いすぎると、「楽しくない」というイメージを持つ人がいる。「防災」と前に出さずに、遊ぶ中で防災を学ぶようなニュアンスを入れてもらえると良い。

3 番目の事業「西宮市の継続的な防災力向上事業」について

○会長

- 提案団体から、事業概要について説明をお願いする。  
→提案団体（西宮防災リーダーの会）から事業の説明。  
では、各委員からの質問をお願いする。

○委員

- ・関係課にお聞きしたい。意見書に、「助成期間終了までに助成金に頼らず存続できる体制を」との記載があるが、そのプランはあるのか。

▽関係課（防災危機管理課）

- ・市から提案団体にお聞きしたいのは、地域に出向いて防災啓発を行う「出前講座」。年間約 80 回実施しているが、大半が土日にリクエストされ、市職員の残業代が発生している。それを提案団体に担ってもらい、残業代の一部を、委託料や報償費として支払うような方向で考えている。

○委員

- ・その場合、1 年目に何人育成されれば、何回のイベントを、いつ渡せるかという目標が必要ではないか。

▽関係課（防災危機管理課）

- ・いきなりすべてをお願いしようとは思っていない。今年度は研修を中心に、実際の会の動きを見ながら考えていきたい。また、出前講座だけでなく、色々なイベントも手伝ってもらいたいと考えている。

◇提案団体

- ・メンバーの育成だけでなく、地域の防災訓練や講座も回っている。実際の行事を展開する中で研修もしていきたい。今年度のイベントの数を考慮して事業内容を検討している。

○委員

- ・事業名にもあるように、大事なものは継続力。単発ではなく持続可能な形で続けていくことが、特に防災の観点では重要。今回、資金面が厳しいため応募したという話があったが、仮に3年間助成を受けられたとして、その後どのように継続的に事業を続けていくか、今の時点での考えは。

◇提案団体

- ・入会された会員から、多額ではない会費をもらう予定。気軽に入会してもらい、自主運営していく。せっかく市の予算で防災リーダーとなっても、なかなか生かせていない人が多い。まずは組織作りが大事。3年間助成金等をもらい、組織をきっちりと整えていきたい。

○委員

- ・現在、市で育成した防災リーダーは何人いるのか。

▽関係課（防災危機管理課）

- ・補助金を出したのは、累計で34人。

◇提案団体

- ・防災リーダーの研修を受けた人に限らず、防災を志す方も含めて広く募集したい。

○委員

- ・防災士の資格を持っている人は何人いるのか。また、後任を育てる活動をしているのか。

◇提案団体

- ・ほとんどの人が日本防災士会と兵庫県防災士会に所属している。近隣市では防災リーダーの会を作って活動しているところが多く、西宮市でも持続的に活動できる仕組みを作っていきたい。後進を育てなければ、講座をできる人がいなくなるため、会を立ち上げた。

#### 4番目の事業「高齢者の災害時の食事を考える健康ランチ付き交流会」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（特定非営利活動法人世界健康フロンティア研究会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・予算額約43万円のうち14万円が講師の交通費として計上されているが、横浜住まいの講師でなければ実施が難しいのか。近隣の人であれば、交通費を抑えることができる。
- ・関係課にお聞きしたいが、今回の防災食等のレシピ冊子の作成や市民への還元というプランについて、この事業がなくても協働して実施する予定はあるか。また、防災フェア等への出展については、この事業がなくても実現可能か。

◇提案団体

- ・交通費についてはとりあえず最大値で計上しており、ゆとりをもって予算化している。私たちが考えているような防災の食育活動を実践できる人が育つのであれば、その人たちの実践の場として、今回の活動を利用してもらえればと考えている。

▽関係課（健康増進課）

- ・レシピ冊子の作成について、本事業とは別で実施するという予定はない。

▽関係課（防災危機管理課）

- ・色々な団体とコラボレーションしたいと考えており、イベントにも出展いただきたいと思う。

○委員

- ・「災害時の高齢者の健康」というところまで絞ったテーマには興味がわく。逆に言うと、ターゲットがかなり絞られている印象を受けたが、あくまで、そのテーマに主眼を置いているとはいえ、日常まで派生する食事のイメージということか。

◇提案団体

- ・高齢者の中には、災害時に避難所へ行くことをメインに考えている人も多いと思う。災害時に避難所というプライベートが守られない環境で、どんどん具合が悪くなっていく人もいるので、何とか自宅で食事の準備をすることによって改善できれば。このようなことを目的に活動をしている団体はまだ少ないので、この活動が出発点になって広がってほしい。

○委員

- ・阪神・淡路大震災のときの弁当が忘れられない。とても辛かった。
- ・高齢者を対象にしているが、若者から高齢者までを網羅するような計画はないか。

◇提案団体

- ・避難所に行く人が増えれば増えるほど、ケアができなくなり、食事対策や栄養対策が難しいということとは明らか。避難所になるべく行かず、在宅避難するのが基本。本当に自分たちではどうにもできない人が避難所で手厚いケアを受けるのが理想。若い人でも体験すれば、その体験は、災害時に生かせるという認識。情報はたくさんあるが、座学で学ぶだけでなく、実際に体験することが重要。

〈第2部 審査〉非公開

以 上